

平成22年9月

[配布先：全組合員]

市場情報

「日時」 平成22年9月10日（金）午前10時30分
「場所」 名古屋「メタルワン」
「出席」 酒匂委員長他名（最終頁参照）
「経過」

1. 委員長挨拶

市場委員長 酒匂 雅信

自分のできることを愚直にやろう

足元の情勢は悪い材料ばかりが現出し、3か月前よりもさらに不透明感を増している。東京圏も一体良いのか悪のか全く分らない。都内の大型建築案件は、ようやく地上部が動き出しているが、これも来年3月頃には息切れし、その先が何もない状況。製造業部門は、7月の建機出荷額が前年比倍増と言っても量的にはピーク比70～75%程度にとどまり、この回復も中国工場に依存しており、国内は空洞化の流れが加速している。それでもリーマンショック直後、ドラスティックな設備・人員削減をしたメーカーは120%操業の超フル状態のところもある。しかし、これが来年も再来年も続くのか分らないし、先行きへの不安は拭えない。暗い話題ばかり申上げているが、さらに言えば下期以降の母材価格についても我々が望むような状況に進むとは今のところ思えない。国内市場の混乱は収まりそうにない。

何かを待っていても良いことが上から舞い降りて来るわけでもないので、自分たちができることを愚直に推し進めるしか手立てはないようだ。

2. 各地区の需要動向

北海道

今年は商いが無い（秋が無い）年

日本列島 何時まで続くこの猛暑。「避暑地」北海道も今年は異常そのもの、“8月の北海道は最も暑かった”30日には34.1度を記録、8月下旬としては観測史上最高気温となり、平均気温は平年比プラス2.8度で1946年統計開始以来の最高となった。紺碧の空。爽やかな秋風のはずが、9月になっても残暑厳しく夏日と真夏日の連続、予報によるとこの暑さは「当分続く」とのこと、農作物への影響も心配され、おそらく夏から一気に冬に、商いが無い（秋が無い）年になるのではと危惧されている。

南欧発の国際金融市場の動揺は、先進国で景気回復の足踏み感が強まり、株安・ドル安・ユーロ安を招いている。さらに、政治の停滞が拍車をかけ経済成長も鈍化し続け、とりわけ地方の疲弊は著しく不透明で、過去に例をみない厳しい状況である。

〔鉄 骨〕 建築着工統計平成22年1～6月実績から推測する道内の鉄骨推計は52,000トで史上最低であった前年の同期に比べ、さらに19.9%減少となり最低レベルにまで落ち込んだ。また、需要の先行きを示す1～8月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量は76,552トで、前年に比べ14.5%と僅かながら上回った。通常の年であれば、7～9月は需要の最盛期だが、本年は低調のまま冷え切った状況が続いている。大型物件の始動は秋口以降となりそうで、大半が来年にずれ込み鉄骨ファブの工場稼働を充たすには需要が少ない。早くも建設業界では「秋枯れ」が懸念され、秋以降中小を中心に経営環境が一段と厳しくなる企業が相次ぐ可能性が大きい。

〔橋 梁〕 期待されたゼロ国・補正予算による発注は、前年度比67.5%の減少。今年度の発注見込みは国と道を合わせ約10,000ト、前年度に比べ47.4%落ち込む中、ようやく本格的に発注されている。入札価格（低入）に加え需要環境は一段と厳しい。このため老朽化の進んだ橋の延命・耐震対策や補修・補強としての落橋防止装置や鋼製床版工事などについても早期発注が強く望まれている。

〔切り板の状況〕 道内需要構造の中心である建築鉄骨および新設橋梁の発注が大幅に減少しており、一部の有力大手ファブを除き工場稼働は低調に推移している。大型物件の始動は秋口以降とみられ、中小新規案件も少なく厳しい状況が続き、需要の最盛期にもかかわらず、切板供給能力全体数量をカバーするには程遠い。数量的な枯渇感は一層顕著になり、深刻度が一段と増すものと憂慮されている。

切板価格の状況は、ゼネコンの競争激化により鉄骨の需要量や単価は依然厳しい状況で推移している。従って、ファブからの指値は一層厳しさを増している。価格対応によって高炉・電炉・輸入材使用と三極化。道内物件は少ロット・小物・型、異型・短納期によりコストアップ。本州ファブの道内ファブへの外注鉄骨切板価格については、関東の切板価格にて指値“角重量単価・実重量エキストラ加算単価”は大幅な値差がみられ、情報が錯綜している。需要不振に加え、切板受注価格の採算ラインを大幅に下回る下落は、この先、さらに悪化が予想されるだけにより深刻な事態となっている。

厚板原板については、建築需要の低迷により高炉メーカーによって対応がまちまちであり、ゼネコンのダンピング受注、ファブの値引き競争により鉄骨単価は低迷。一部工事は、電炉材・輸入材を容認する動きもある。しかしながら、トレーサビリティが厳しく要求される工事も着実に増加しており、高炉材での加工を求めながら価格は電炉材並み。本州の切板価格は道内価格に対し大きく乖離しており、素材価格が大きく影響している。グローバル化、北海道価格廃止、全国「一物一価」対等な競争を望むところである。

道内の建設業界は、長期にわたる公共投資の抑制と過当競争で疲弊、民間建築投資も厳しく「秋枯れ」が懸念され、政府の緊急保障制度などで何とか延命しているが、厳しい経営環境から与信問題は今後より一層深刻度を増している。***「コンクリートから人へ」から、疲弊著しく先行き不透明な地方に対しては「人の役に立つコンクリートへ」早急な景気回復策を最優先に。***

(玉造(株)・西村卓也)

東 北

コインパーキング

全国的に猛暑が続いていますが、東北地方も例年に無く非常に暑い日が多く、観測開始以来、猛暑日が最多記録を更新し、東北の気象史に残る酷暑となっています。東北地方の景気は、気候と同様、いまだに厳しい状況が続いています。

地場物件が少ない東北では首都圏の物件が頼りですが、先行き不透明感は拭えずシャアの工場稼働も60～70%で、引き続き雇用調整をせざるをえない状況ですし、高炉の母材価格も高止まりであり、切板価格への転嫁が出来ずに苦しい状況です。

仙台市内も老朽化したビルが多々ありますが、解体され建て直しされるかと思いきや更地のままか、コインパーキングになり、建築計画の先延ばしとなっています。民間需要が旺盛になり、一日も早くビルの建設を進めて欲しいものです。

(J F E 鋼材・庄子悟)

東 京**橋梁は壊滅的、建築は先が見えない****【全 体】**

足元の状況は、橋梁の低迷と大型鉄骨案件の遅れから、一部を除きシャー各社とも極めて

厳しい稼働状況となっている。しかし8月に入り、鋼材使用量の多い大型鉄骨の地上部が動き出したことから、鉄骨を主体とするシャーの稼働は改善しつつある。

今後の動向は、橋梁が下期も惨憺たる状況が続く見通しであるが、大型鉄骨案件の出件が9月から年内にかけ集中しており、鉄骨比率の高いシャーはフル稼働状態になる見込み。

【橋 梁】

21年度の発注量が20万トン程度と低レベルにとどまることや、関東ファブがことごとく失注しており、各ファブの手持ち工事量は秋口までしかなく、それ以降は伸びていない。夏季休業も10～30日と従来にない長期間となった。その結果、7月以降の橋梁の切板発注量は激減しており、過去最低まで落ち込んでいる。少なくとも年内は足元の極めて厳しいレベルが続くとみられる。下期の入札も本格化するのは11月以降とみられ、仮に受注が決まっても、加工は早くて年度末近くになる見込み。今年度の数量は極めて厳しい。

【鉄 骨】

設備投資関連や中小建築案件の中止により、中小ファブの稼働は惨憺たる状況にある。

一方、超高層ビル案件は、今のところ大きな計画変更は見られず、Sファブ対象案件は高水準に推移している。

4月から本格化した地下部に続き、8月からは地上部が本格化しており、関東Sファブ各社の工場稼働は8月から年内にかけフル稼働が続く見込み。

年明け以降は、ファブによってやや差があり、急減するところと、年度内または23年度1Q頃まで高水準が続くところが出る模様。

いずれにしても、足元で集中している大型案件以降の物件がなく、来年度以降は極めて厳しい状況となる見込み。

(富士鉄鋼センター・井沢純司)

東京

建産機、復調もまだら模様

【全体】

各社の取扱い機種によって受注量の違いが顕著であり、足元の景況感はまだら模様の状態が続いている。今後については、外需主体で生産が回復基調にある分野も、急激な円高で、受注の減少や採算悪化による減産実施などの影響が出始めており、先行きへの不安が深刻化してきている。

【建設機械】

建設機械の7月出荷額(日本建設機械工業会調査)は、前年比+103.8%で7ヵ月連続の増加。足元、中国での伸び率鈍化が懸念材料であるが、同工業会の需要予測では、今年度は前年度比+41%とみており、この堅調さはしばらく続く見込みである。

油圧ショベル

外需は、新興国向け輸出が絶好調、内需は中古機械市場の活性化と排ガス規制対策の買換えで緩やかな増加。シャーの受注は概ねピーク時の65%程度まで回復。

建設用クレーン

全体に受注はピーク時の40%弱程度にとどまる。クローラクレーンは低迷が長期化しているが、北米および国内在庫はほぼ調整に目途が立ち、来年度からは実販レベルでの生産に移行する見込み。ラフテレーンクレーンは販売低調により、下期以降の増産計画をほぼ横ばいに下方修正。

鉱山機械

世界的な資源需要の回復から鉱山機械の輸出は大型機種を中心に急回復。鉱山用ダンプだけでなく、大型ショベル・ホイローダまで波及。この急増を背景に、一部関係シャーはユーザーから増産体制確立の要請を受け、その対応に苦慮している。

【板金・鍛圧機械】

板金機械は、輸出が堅調で、前年比倍増が続いている。22年度の受注予測では、ピーク比70%程度が見込まれており、回復基調が鮮明になりつつある。

プレス機械は、超大型プレスの伸長が著しく、その他も小型から大型・油圧まで回復(日本鍛圧機械工業会)。この回復は驚異的であり、機械導入の引き合いが着実に増加している模様。小型は液晶など電子部品向けの需要が増加。

【重電】

重電は、今年度上期中の低迷が予想されていたが、足元の情勢ではさらに長期化しそうである。

原発以外の受注が低調であることや、海外調達の加速が落ち込みの一因となっている。原発は、計画中の建設案件が多く、24年度以降への期待大。

【産機店売り】

産機店売りでは、一般店売り・中小建材シャーと同様で、超閑散状態が続いている。素材価格の高炉・電炉二極化も受注瀬谷区を複雑化させており、又この分野でも円高の影響を受け、輸入材に切り替えられたとの話もある。受注低迷の長期化と低価格受注により、体力消耗が続く深刻な状態である。

(ニューエイジ・池田啓志)

東 京

弱気の虫を封印せよ！

時間の経過と共に深刻度が増している中小建築系シャの稼動&業績状況ですが、7～9期でもその流れは止まる事も無く、低調のまま押し流された様な状態で悪化の一途と言ってもいい位ヒドイ。

ここ数年秋需と言う表現も消えているが、流石に今下期は微かな期待が寄せられる処であるが、それも昨年から引きずったまま、今年一年が我々中小に何の合図も、明かりも見えずに通過ぎてしまうのでは、と言う不安が更に押し掛かる中で、藁をも掴む思いからの期待なのだが……。しかし新規物件の流れは変わっておらず、常に半年先の話ばかりが繰り返されており、実際に決まるケースは少ない。工事の延期や中止もあるのだろうが、どうも超安値受注により(主に商社鉄骨と呼ばれている)、自然消滅的風にある日突然交渉の場から消えている様で、地方ファブにはめ込まれた都市部案件はかなりの数あるようだ。

その中で、中小シャは低操業を繰り返し、未だに3～4割操業となっている所も多く、死活問題となりそう。金融機関からは、要注意業種とされ資産表を求められる回数も増えている。信用問題からかなり重い負担となっていると言う事ではないか。

今、迷い無く頑張り通せるか疑問もありますが、弱気の虫を封印して常に明日への活力を注入し、奮い立たせる事を忘れず、変化する事がキーワードではないでしょうか。

(丸東興業・秦弘志)

東 京

与信管理に注意を

浦安地区の一般店売りの状況は、全体の約8割を占める中小建築物が相変わらず乏しく、荷動きは超閑散状態である。7～9月は工賃切りで辛うじて凌いでいるが、概ね1日～2日の短納期での稼働状況が続く。現在、母材価格の2極化により、ほとんどの引き合いが電炉材指定という傾向になっている。在庫は増加気味で、特に耳付き材の増加が目立つ。

全体的には、強まる与信不安を抱えながら、先が見えない状況がこのまま続きそうだ。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

東 海

円高の不安が…

東海地区の店売熔断業者は、3～4月は仮霜で少し潤いましたが、5月の連休を境に需要が落ち込み、それでも6月～7月は、ヒモ付関係の好調な輸出のおこぼれを拾いながら仕事を進めてきました。しかし、7月発表の電炉の母材の値下げと円高などによる盆明けの仕事の減少に単価も事実上値上げ前に戻ってしまい、又秋には自動車のコスト削減の設備投資をするという話が前回出ていましたが、話は残っているみたいですが動きがまったくない状況で、一部の土木仕事を除き、下期は不安要素で一杯になっています。

仕事の量の割合は、6～7月は7割稼働まで戻っていたのに8月に入り、1割～1.5割ダウンした感じとなり、値上げ出来ない単価の前に、利益を出すのも難しく、経営判断が問われてきました。

一方ヒモ付熔断業者の動向は、

【プレス】 円高の影響も心配だが、今のところ小型プレスの輸出台数は前回より増えている。しかし、国内向けが減少しており、特に大型プレスの国内物が減ってきた。

【建機】 クローラクレーンなどの輸出品が円高の背景を受けてキャンセルが出ており、10月以降は、さらに厳しくなると思われる。ただしエンジン部品の輸出は好調で、エクステリアは現地生産で、動力部分は日本国内製品が使われている。フォークリフトは、ピークには及ばないものの、好調を維持している。

【専用機】 IT向の半導体製造専用機は円高の影響を受けず、好調に輸出を続けているが、秋口には生産調整をするとの情報も流れている。

【造船鉄道車両】 東海地区は少ないが、前回同様、好調を維持している。

【昇降機】 国内に関しては、前回同様良くないが、輸出物件が7月より出ているので、一時的なものかもしれないが、ピーク時の60%まで回復している。

全体感からすると、輸出に支えられている産業機械分野のヒモ付熔断業者は、円高の影響を受け始めており、秋以降の仕事量に不安が出てきています。

それを証明するように、市況に敏感な店売り熔断業者の方から仕事がなくなり始めている気がします。

各社とも一度やめた雇用調整金を復活させなければという言葉も出ており、利益を出せない中、不安な気持ちでいっぱいです。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

東 海

厳しいパターンが2つ

東海地区の建材シヤアの直近の稼働につきましては、概ね二つのパターンが生じています。

1つのパターンは、東海地区は相変わらず建築物件が少ないために、工場稼働は5～6割程度の操業、中にはそれ以下の稼働状況もあり、雇用調整金を受給して凌いでいるといった状況です。

現状は低操業であっても、まだ雇用調整金を受給していないところも、今後回復しそうな需要状況からしますと、受給手続きをしなければならなくなりそうと言う事です。

東海地区のメーカー系シヤアの橋梁物件は昨年からはほとんどなく、この先もない。または直近まではかろうじて仕事量はあるが、この先は取引先の橋梁メーカーの受注状況によって仕事量が左右されることにより、増加の見込みはないといった状況です。

もう一つのパターンは、「利益なき繁忙」といった状況です。

工場の稼働率は、8割程度ところからフル操業のところまであり、残業を行わなければならない場合もある。そういった稼働状況でも、実際の切断量はこれだけ工場が動いて、これだけしかないのかと思うほど、少ないといった状態です。

原因としては、工場の生産効率が以前レベルまでは回復していないことや、切板製品の小型化、小ロット化、穴あけなどの二次加工付加成品が増加したことなど、切断効率の悪い切板製品の割合が増えたためです。

たてこういった手間隙がかかる切板製品であっても、低調な需要を背景に生産ベースの単価ではなく、需要家の欲しい単価との折り合いによる単価となってしまうことが多い。切断機は絶えず動いていて、一見忙しく活況があるような状況なのですが、実際には採算はま

まったく合っていない。利益なき繁忙といった状況となっているのです。

こうした状況ですので、賃金の見直し、輸送コストの見直し、消耗品の削減など、経費節減をさらに強化しているとの報告もありました。

昨年度までは収支トントンといった状況で、何とかしのぐことが出来たところも、今年度は赤字経営が続いているとの事です。今年度は建築分野において、まったく東海地区の実需を伴わない素材値上げがあったために、厳しい経営環境となっているとの訴えがありました。

自動車関連企業などの設備投資に頼るところが大きい東海地区においては、見通しはまったく見えず、かなり暗いのではないかというのが現状です。

(中部鋼鉄・加藤一修)

大 阪

原料の値下りの影響は

1. 全般

- (1) 需要は、8月は夏休みの関係で稼働日が少なく、一部を除いて低迷したままで荷動きも悪い。
- (2) 秋需に期待をしたいが、当面明るさは見えないものの、これ以上落ちこむ事は無いと思われる、我慢勝負である。
- (3) 価格は高炉メーカーの値上げによる物が出回る一方で、需要が無いことから、またぞろ安値が散見されている。
- (4) ここにきて(下期以降を睨んで)高炉メーカーの対応(量・価格)に多少違いがでてきており、また原料の値下りで、鋼材価格がどのようになるのかが焦点となってきている。
- (5) しかしながら、川上と川下の温度差は依然大きな隔たりがあり、東鉄の価格とかポスコの価格が話題に上る。
- (6) 仕事が無く、価格が高くなれば当然の事ながら与信が問題となり、鉄鋼関係でも業界紙に掲載されている

件数は増加傾向にあるようですが、近畿では今までに大所が倒産していることから減少しているが、小規模企業の割合が増加している。

2. 需要部門別

(1) 橋梁

- ① 7月までに行われた改札状況が判明してきたが、関西 FAB の受注はそれほど多くは無く、このままでは下期にはアイドルが出てくる所もある。

② ただ、今年度の発注は20万と言われていたのが、25～26万tと当初見込みより増えており、先日行われた東海環状道路のような大型物件がまだ控えており、期待している。

(2)鉄骨

① 大型物件以外は相変わらず見当たらないことから、Mグレード以下のファブは仕事がなく汲々としている。

(3)建機

① 8月になっても好調で、当面高水準で推移する見込み。しかし鋳物関連の遅れがあり、いつまで続くのか、気になるところである。

(4)その他

① 関西の上場企業の業績は、電機や素材産業が押し上げ、好調なるも景気の減速懸念で不透明感が根強い。

②近畿の製造業の2010年度の設備投資は、製造業が電気機械の前年同期比+25%と好調で、これが全体を押し上げ同9.8%となっている。

このように期待を抱かせる数字は出ているが、今の所恩恵に浴してはいない。

(シーヤリング工場・佐々木泰司)

九 州

増産に備える建機メーカー、近い将来は海外へ

【産 機】

工作機械メーカーの受注状況につきましては、08年7月(100)をピークに、09年7月は20%、10年7月は約835億円と60%まで回復傾向をみせております。

内容は内需+34%、外需+66%と前月比の2.6倍となり、外需を中心に受注は増加傾向にあります。一部の内需にも回復傾向がみられ、秋口(TV関係のチャンバー)～3Dに変わって有機ELの製作が目立つようになってきました。

一般産機では、依然と短納期、小ロットの受注が多く、残業2交代と納期を守る為コスト高になっている。又、仕事量も満足できない状態で、採算割れの価格も出てきているようです。

為替の影響も含め産業機械の製作を海外にて調達するケースが多く見られるようになった。クレーン関係も含め、設備投資がほとんど無い状態の中、産機製作メーカーは、引き合いは非常に少なく、手持ちの仕事も底が見えている状態になっております。

更に、海外よりの調達のパイプが増えると一段と更に厳しくなる。10年7月の数字は回復傾向にあります。日本工作機械工業会(日工会)の調査では、平成22年度の工作機械メーカ

一の受注見通しは07年～08年のピーク時に比べ、内外需合わせて6500億円と40%にすぎず、九州では工作機械 産業機械の活発な動きは見られない。

【建機】

今年度の生産台数は、秋口より増産に入る計画もあり、一部では08年度ピーク時を上回る生産台数も聞かれます。

大型、小型 につきましても、出店機関より人材を戻し増産体制に備え、又立地条件の悪い工場等は、本格的に工場移転計画もあるようです。又、一方で為替の影響、人件費対策等で近い将来生産拠点を海外(中国)に移し、材料等も現地調達することも構想にあり、これが実現すると九州内でも空洞化が一段と増し、建機メーカーの協力企業にも大きな影響を及ぼす。

(門倉剪断工業・白水正幸)

九州

連動していないメーカーとシャー

厚板溶断業者をとりまく経営環境は大変厳しい状況が続いている。

メーカーの母材単価と切板単価は連動して上下するのが理想であるが、メーカーの母材は切り上がり、切板単価は低位横ばいのみで採算のとれない状況が続いている。

九州の建築案件は、当初見込みから1～2ヶ月遅れとなっているが、9月から下期にかけて中型案件が出てきており、シャーの稼動はやや上向いてくる。

また、耐震補強がらみの物件も出ており(7月～8月)、稼動を上げているところもある。

8月の公共工事の発注額は、1,446億円(対前年比▲14%)と5ヶ月連続の減少、4月～8月の累計でも6,317億円(対前年比▲7%)と前年割れが続いている。

橋梁についても、九州地区ファブの新規受注は積みあがらず、低位横ばいのみで推移している。

産業機械では、一部建機メーカーの稼動が上がっているところもあり、また、輸出向け・半導体向け・造船向け案件など一部生産が上向いている会社も見られる。

但し、業界全体で見れば、全体の需要が盛り上がるまでは至っておらず、厳しい状況が続いている。

8/26 シヤリング工業組合九州支部の報告 (出席：14社)

- ・工場稼動

50%稼働：4社、60%稼働：4社、100%稼働：1社

- ・切板受注単価は客先の要求が厳しく、上げるのは難しい。
- ・仕事がなく在庫がなかなか減らない。
- ・経営改善で色々なことをやっている。

①人員削減 ②雇用調整金の取得 ③工場の集約など

全体的な意見としては採算の合わない仕事はしない＝仕入れに見合った販売をしていくとの意見が大半であった。 (豊鋼材工業・橋本勝美)

4. 高木理事長の感想

各地から生の状況を聞かせていただいて、若干の差異はあるが、悪いのは自分の地元だけではないことが分かった。日本の景気・経済そのものが減速する中、政府は何も施策を打ちだしていない。ならば我々は自己防衛のために何をなすべきかだが、やはり量がない中で6割操業を前提に、これまで以上に地道に、愚直に、コストダウンをやるしかない。

また、当面我々がとくに注意しなければならない点は、①与信の問題に改めて気をつけていただきたい。今年に入ってから倒産件数が不思議なほど少ないが、これは昨年末から施行されているモラトリアム関連法の恩恵を受けて、辛うじて存続している企業が多く、来年以降これが経営破たん等の形で顕在化する可能性が極めて高い。②橋梁・建築業界においては、こうした金融問題に加え、下期以降、能力と仕事量のギャップがさらに拡大し、そのシワ寄せで構造的な問題が急速に表面化するとみられる。注視が必要だ。③先日、所管官庁である経済産業省鉄鋼課より、再度、独禁法コンプライアンスについての周知徹底の要請があった。品質証明問題も含めすべての法令遵守をお願いしたい。これらの点に十分留意しながら、シヤー業界は辛抱するしかないと思う。

※なお、会議終了後、林支部長をはじめ東海支部の方々のご案内により、名古屋駅前の「ミッドランドスクエア」のスカイプロムナード等を散策、見学した。

以上

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

酒 匂 委 員 長(京浜産業)
ゲスト 高 木 理 事 長 (富士鉄鋼センター)
吉 里 総 務 委 員 長 (J F E 鋼 材)
林 東 海 支 部 長 (三和鐵鋼)
山 村 理 事 (熱金鋼業)
佐 野 理 事 (丸八鋼材)
高 田 理 事 (東海鋼材工業)
長谷川 (鬼頭鋼材)
堀 場 (三和鐵鋼)
東 北 庄 子 (J F E 鋼 材 ・ 仙 台)
東 京 秦 (丸 東 興 業)
池 田 (ニューエイジ)
井 沢 (富士鉄鋼センター)
角 田 (三ノ橋鋼材)
東 海 鈴 木 (鈴 将 鋼 材)
加 藤 (中 部 鋼 板)
大 阪 佐々木 (シーヤリング工場)
九 州 白 水 (門倉剪断工業)
橋 本 (豊 鋼 材 工 業)
事務局 柘 野

市場委員会の次回開催予定

第147回市場委員会

12月10日(金) 正午～

於・東京鉄鋼会館